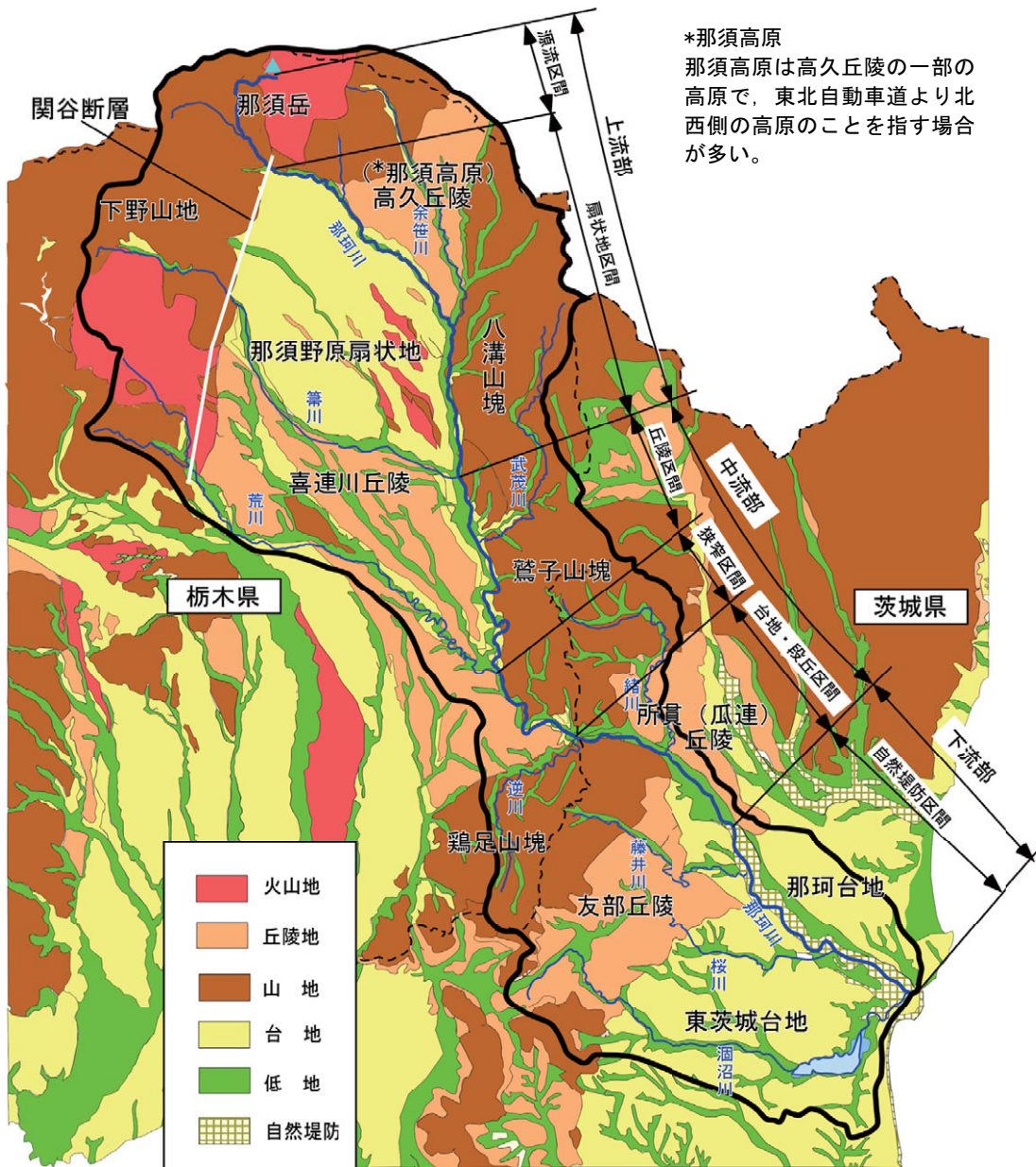


2 流域の自然

那珂川の上流域には那須岳，高久丘陵（白河丘陵），那須野原扇状地（那須扇状地），八溝山塊，喜連川丘陵（塩那丘陵）と言った山地と丘陵が広がっており，地質的には新しい第四紀の火山性堆積物が広く分布する。中流域には八溝山塊，鷺子山塊，鷄足山塊からなる八溝山地が南北に走り，古生代の堆積岩が山地を形成しており，那珂川はその山地を侵食した狭窄部を流れている。狭窄部を出ると所貫（瓜連）丘陵，友部丘陵，那珂台地および東茨城台地の第四紀洪積台地の間を流れ，その間および下流には肥沃な沖積平野の田園地帯がある。流域の地形は，山地が62.5%，平地が37.5%の割合である。



(『土地分類図 08 茨城県, 09 栃木県』をもとに作成)

図 1-3 那珂川流域の地形分類図

源流部の那須岳周辺の気候は、天候が変わりやすく、冬期に気温が低い山岳特有の気候である。降水量は春から夏にかけて多い。上流域の那須野原扇状地では冬から春にかけて「那須下ろし」と呼ばれる季節風（からっ風）が強く、屋敷林を設ける家が多い。この地域から中流域にかけては夏期と冬期の寒暖の差が大きい内陸性の気候である。下流域の水戸およびその周辺は海洋の影響を受け比較的温暖である。

年平均降水量（平成7年～平成16年の平均）は、大田原1,555mm、烏山1,345mm、水戸1,310mmとなっており、関東地方の年平均降水量1,550mm、日本の年平均降水量1,718mm（昭和46年～平成12年の平均『日本の水資源』）に比較して少ないが、源流部の那須（那須岳）では2,065mmの降水がある。



図1-4 那珂川流域の気象観測地点

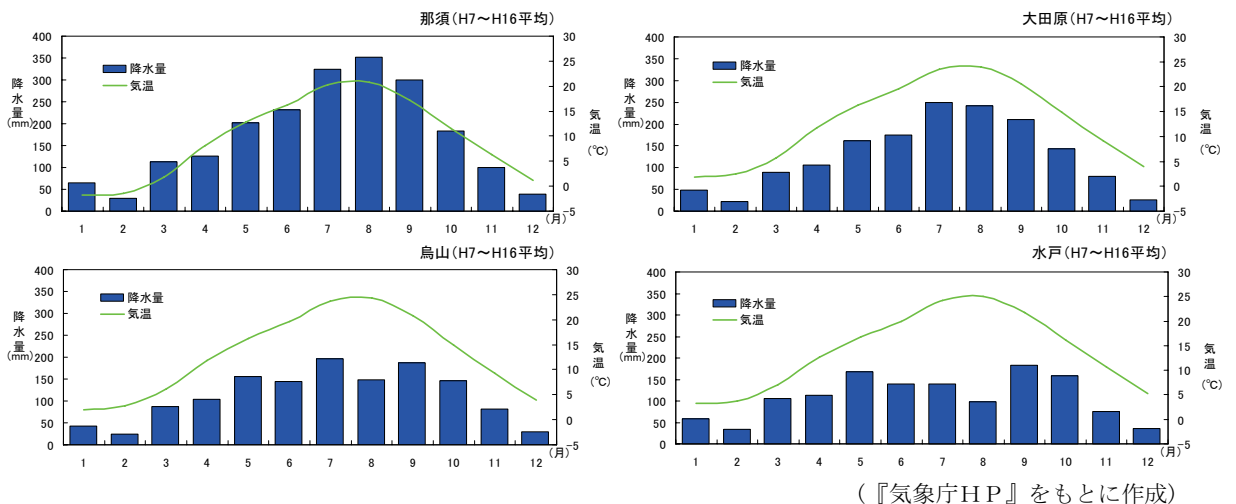


図1-5 那珂川流域の月別平均気温・平均降水量（平成7年～平成16年の10ヵ年平均）

那珂川流域に降った雨の約7割が那珂川に流出する。那珂川には水を貯留する大きなダムが少なく、川の水量は雨の多少によって大きく変化する。一方、那珂川は関東でも屈指の清流として知られ、河口から上流域まで魚類の遡上を阻害する構造物が少なく、アユ、サケをはじめとする豊かな生物を育てている。平成10年～平成16年の本川の水質は全川を通じて、BOD75%値の環境基準A類型（2mg/l以下）を満たし良好である。

流域には、「日光国立公園」をはじめ、「八溝」、「那珂川」、「益子」、「御前山」、「笠間」、「吾国愛宕」、「水戸」および「大洗」の8つの県立自然公園があり、豊かな自然に恵まれ多くの人々に親しまれている。